

石油技術協会誌投稿要領

平成 08 年 01 月 16 日	全面改定
平成 19 年 08 月 28 日	全面改定
平成 21 年 12 月 15 日	一部改定
平成 23 年 12 月 14 日	一部改定
平成 24 年 12 月 18 日	一部改定
平成 26 年 06 月 18 日	一部改定
平成 29 年 12 月 13 日	一部改定

1. 総 則

石油技術協会誌（以下、本協会誌という）への投稿に関しては、本投稿要領に従う。

2. 原稿の提出

2.1 投稿時の提出原稿

(1) 原稿整理票

1部(本協会誌最新巻第1号掲載,またはホームページよりダウンロード)。

(2) 本文等(表紙, 英文要旨, キーワード, 本文, 図の説明文の一覧表)および図表(写真は図とする)。

(3) 提出方法

原稿はCD等の電子媒体で送付するか,あるいは電子メールで送付することを基本とする。本文等は可能な限りPDFとし,図表はPDF, Tif, GIF, JPGその他の一般的なフォーマットとする。電子メールに添付するファイルのサイズは可能な限り小容量とし,大容量となる場合は会誌編集委員会(以下,本委員会という)の指示に従う。

印字出力により提出する場合は, A4判サイズの用紙に本文等を印字出力したものと,オリジナル図表のコピーを送付する。

2.2 投稿時の図

図は, 査読上支障のないよう鮮明な画像とする。

2.3 再提出時の注意

原稿投稿後修正が生じた場合, または査読者の指示により再提出する原稿においては, 例えば下線を付すなど修正箇所がわかるよう明示して本委員会に提出する。

2.4 受理後の提出原稿

本委員会から原稿受理の通知があった場合には, 本委員会の指示に従い最終原稿本文等と図表を提出する。受理された原稿は原則として著者に返却しない。

(1) 最終原稿本文等

表紙, 英文要旨, キーワード, 本文, 図の説明文の一覧表をデジタルデータで提出する。

(2) 掲載用図表

図表のデジタルデータの形式はPDF, Tif, GIF, JPGその他の一般的なものとし, 原稿とは別ファ

イルとする(原稿本文中に図表を組み込まない)。

投稿時の審査用図面ではなく, 解像度劣化のない鮮明な原図, 写真等を提出するよう注意すること。

(3) 電子メールまたは電子媒体にて提出する場合には, 使用ソフトウェア名およびそのバージョンを明記する。電子媒体の送付前に, あらかじめウイルスチェックを行うものとする。

3. 原稿の長さ

3.1 最大ページ数

原稿の種別ごとの最大ページ数は, 石油技術協会誌投稿規定の別表に従う。次項3.2~3.3を踏まえ, 最大ページ数を勘案して原稿を作成する。

3.2 1ページの文字数

1ページには, 和文では2,600字, 英文では5,800字が掲載される。

3.3 表紙および図表に必要なページの目安

3.3.1 表紙

表題(和文, 英文), 著者名, 英文要旨と英文キーワード(論文, 報告, 短報, 総説, 資料, 解説および講演のみ)および脚注には, 一般に0.8~0.9ページを要する。

3.3.2 図表

各図表の大きさを, ①片段(ページ片方の段にのみ掲載), ②両段(ページ両方の段に亘って掲載), ③全ページのいずれかで指定する(4.6(6)を参照)。

4. 和文原稿の書き方

4.1 用紙

原稿はすべてA4判縦置き横書きとし, パソコンまたはワードプロセッサによるものを標準とする。パソコンまたはワードプロセッサによる原稿は, カタカナは全角(2バイト), 数字とアルファベットは半角(1バイト)を使用し, 10~12ポイント, ダブルスペース相当の行間を空けて, また, 上下左右3cm程度の余白をもって印字する。

図表を含みすべてのページに連続的なページ番号を記すこと。

4.2 原稿の表紙

原稿の第1ページ(表紙)に, 以下に記す原稿の種別,

表題、著者名などを順に記し、必要に応じて脚注にてその他情報を補足する。

- (1) 論文、報告、総説、資料などの原稿の種別（投稿規定第2条原稿の投稿を参照）。
- (2) 和文表題
表題は簡潔にかつ主題を明確にすることが望ましい。
- (3) 和文著者名
- (4) 原稿の受付日と受理日（英文）（原稿受理の通知を受けてから最終原稿に加筆する）。
- (5) 英文表題
表題は簡潔にかつ主題を明確にすることが望ましい。
- (6) ローマ字著者名（省略せず完記する）。
- (7) 口頭もしくはポスター発表がしてある場合は、その年月日と発表した発表会の名称を和文および英文で脚注に記す。
- (8) 著者の所属機関名を和文および英文で脚注に記す。
著者の現在の所属機関が原稿の研究を行った機関と異なる場合は、研究を行った際の所属機関を主とし、併せて現在の所属機関を記す。
共著者の所属機関が異なる場合は著者と所属機関をアスタリスクで対応させること。
著者の e-mail アドレスを脚注に記す。
共著の場合はコレスポンディングオーサーを脚注記号で指定し、その e-mail アドレスを記す。

4.3 英文要旨とキーワード

- (1) 論文、報告、短報、総説、資料、解説および講演には300語以内の英文要旨（Abstract）を添える。
- (2) 英文要旨の下に英語のキーワードを付ける。キーワードは3以上、12以下とし、著者が付け本委員会が補う。

4.4 本文

- (1) 章・節および項の区分はポイントシステムとする。
章・節には副題をつける。
章番号は「1., 2., 3., …」, 節番号は「1.1, 1.2, 1.3 …」, 項番号は「1.1.1, 1.1.2, 1.1.3 …」とする。
(例) 1. 石油システムの概念と評価法
 1.1 「石油システム」とは
 1.2 「石油システム」評価法
- (2) 新かな遣いおよび常用漢字の使用を原則とする。
ただし、特殊な術語はその限りではない。
- (3) 一般的な用語を用い、俗語や特殊用語の使用は避ける。
略語の使用は最小限にとどめ、使用する場合は初出箇所に正式名を書き、略語を括弧に入れる。
- (4) 外国の人名、地名などの固有名詞は、外国語で表記することを妨げないが、その際、日本語または英文を併記する。
- (5) 術語と物質名は、日本工業規格（JIS）に準拠するほか、文部省学術用語集および石油技術協会（以

下、本協会という）が出版する「石油鉱業便覧」、
「石油地質・探鉱用語集」、
「油井・パイプライン用鋼管ハンドブック」、
「石油生産技術用語集」などを参考にする。

- (6) 生物名の属以下の名称（学名）、変数名などはイタリック字体（または下線）を用いる。
- (7) 数量、序数を示す数字はアラビア数字とし、漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を使用する（例：三角州、四隅）。
- (8) 単位は原則として国際単位系（SI）を用いる。やむを得ず従来単位を用いる場合は、各数量ひとつの単位に限定し、脚注または末尾にSIとの換算係数を一括して付記する。また、数量単位記号には国際的に慣用されているものを用いる。
- (9) 量記号は原則としてJISZ8202（量記号および単位記号）、数学記号はJISZ8201（数学記号）、化学記号は万国化学記号による。また、質量数は元素記号の左肩に付ける。
- (10) 本文または数式に用いる記号は、原則として本協会編「石油鉱業便覧」およびSPEの「SPE Symbols Standard」を参照する。記号の説明は、必要に応じて、本文中か末尾の引用文献の前に一括して記載する。記号とその説明文の間は「:」を用いる。
- (11) 数式は行を替えて記し、括弧内に通し番号を付ける。文中で使用する場合には特殊な記号を用いず、“a/b”, “exp (a/b)” などの記法を用いること。また、あいまいな表現を避け（特に分子、分母の区別）、他の記号と混同しないよう注意すること。本文中で引用する場合は、式(1)のようにする。Appendixで数式や方程式は、式1, 式2・・・等で記す。

4.5 引用文献

私信、未公表・未刊行物、準備中・投稿中あるいは審査中の原稿などの外部に公表されていないもの、およびホームページのURLは、原則として「引用文献」として認めない。

- (1) 本文中で引用文献を示す場合は以下の様式に従う。
著者が1人の場合：著者（1991）または（著者，1991）
著者が2人の場合：著者1・著者2（1999）または（著者1・著者2，1999）、欧文の場合はAuthor1 and Author2（1999）または（Author1 and Author2, 1999）
著者が3人以上の場合：著者ほか（1991）または（著者ほか，1991）、欧文の場合はAuthor1 *et al.*（1991）または（Author1 *et al.*, 1991）
ただし、同一著者による同一出版年の文献を2件以上引用する場合には、出版年の後にa, b, c, …を付して区別する。
- (2) 引用文献リストの書き方は以下の例に従うことを原則とする。
引用文献は本文末に著者名のアルファベット順に

一括する。同一著者の文献が2件以上あるときは出版年順に、さらに同一出版年に2件以上あるときは出版年の後に a, b, c, ... を付して並べる。書体は著者が指定し、巻数を示す数字には太字体（校正記号で示す場合は波形下線）を、欧文の雑誌名と書名にはイタリック字体（校正記号で示す場合は1本下線）を用いる。

(a) 雑誌論文

著者名, 出版年, 論文名, 誌名, 巻, 号, ページ, DOI, の順とする。

(例) 平井明夫・佐藤時幸・高島 司, 1990: 八橋油田における油の根源岩と生成・移動・集積. 石技誌, 55(1), 37-47, doi: 10.3720/japt.55.37.

(例) Takahashi, M. and Hayashi, M., 1991b: Zircon crystal morphology of the Miocene tuffs in the Kamogawa area, Boso Peninsula, central Japan. *J. Japan Assoc. Petrol Technol.*, 56(6), 477-481, doi: 10.3720/japt.56.477.

(b) 予稿集論文・会議録論文

著者名, 出版年, 論文名, 会議名, 開催地, 開催日, 論文番号またはページ, DOI, の順とする。

(例) Naganawa, S., Kudo, H. and Matsubuchi, H., 2016: Simulation Study on Influences of Wellbore Tortuosity on Hole Cleaning in Extended-Reach Drilling. Proc. Abu Dhabi International Petroleum Exhibition and Conference (ADIPEC), Abu Dhabi, UAE, November 7-10, SPE-183409-MS, doi: 10.2118/183409-MS.

(c) 単行本

著者名, 出版年, 書名, ページ, 出版社, の順とする。

(例) 日本アイソトープ協会編, 1970: 新版アイソトープ便覧, 丸善.

(例) Tissot, B. P. and Welte, D. H., 1978: *Petroleum Formation and Occurrence*, 500-508, Springer-Verlag.

(d) 単行本や編著本の一部

著者名, 出版年, 表題, 書名, 編著名, ページ, 出版社, の順とする。

(例) 渡辺武男, 1961: 鉱床. 地球の構成, 坪井忠二編, 269-290, 岩波書店.

(例) Magoon, L. B. and Dow, W. G., 1994: The petroleum system. In *The Petroleum System—From Source to Trap*, Magoon, L. B. and Dow, W. G. eds., 3-24, *American Association of Petroleum Geologists*.

(e) 電子文献, ウェブサイト

著者名, 掲載年, 表題, URL, アクセス日, の順とする

(例) 経済産業省, 2015: 長期エネルギー需給見通し, http://www.meti.go.jp/press/2015/07/20150716004/20150716004_2.pdf (accessed 2016/05/13)

(例) 経済産業省, 2017: 第2回メタンハイドレート海洋産出試験を終了しました, <http://www.meti.go.jp/press/2017/06/20170629004/20170629004.html> (accessed 2017/07/03)

4.6 図表

図は、そのまま拡大または縮小して掲載できるように鮮明なものとする。

(1) 図表には番号と表題および必要な場合は説明を付ける。番号は通し番号とし、表題および説明文は和文または英文とする。

(2) 文献の図表を引用する場合は、当該表題の後にその著者名と西暦出版年を記す。

(3) 図表は別紙に作成し、本文原稿の右欄外に挿入位置を指定する。

(4) 図には余白に著者名と図の番号を略記する。表題および説明文は図中に記入せずに、別に図番と表題および説明文(必要に応じて)の一覧表を作成し、「図の説明文の一覧表」として添付する。原稿受理の通知があった場合には、可能な限りオリジナル原図を提出する。

(5) 顕微鏡写真にはスケールバーまたは凡例で大きさを示す。

(6) 図表は掲載時の1ページ分を最大限とする。各図表の大きさの指定については、3.3.2による。ページ数の制約などで必要な場合、本委員会は大きさを変更できる。

4.7 口絵

(1) 全体としての題目を付ける。

(2) 著者, 撮影者を明示する。

(3) 原則としてカラー写真2~6枚程度で、相互関係を明確にする。

(4) それぞれに数行の説明文を付ける。

5. 英文原稿の書き方

英文原稿の書き方については英文投稿要領“Guide for Author”を参照のこと。なお、英文原稿の場合は、和文表題・著者氏名とともに、1,200字以内の和文要旨を添える。

付 則

本要領は石油技術協会誌編集委員会運営規定第8条に従って定めるものである。

本要領の改廃は本委員会の発議により、理事会の議決によって行う。

本要領は平成29年12月13日より施行する(第82期第5回理事会承認)。

SI 単位換算係数 (SPE 表示形式)

inch	×	2.54*	E - 02	= m
ft	×	3.048*	E - 01	= m
ft ³	×	2.831685	E - 02	= m ³
bbbl	×	1.589874	E - 01	= m ³
kgf	×	9.80665*	E + 00	= N
kgf / cm ²	×	9.80665*	E + 04	= Pa
atm	×	1.01325*	E + 05	= Pa
lbm	×	4.5359237*	E - 01	= kg
lbf	×	4.448222	E + 00	= N
psi	×	6.894757	E + 03	= Pa
darcy	×	9.86923	E - 13	= m ²
			E - 01	= μm ²
md	×	9.86923	E - 16	= m ²
			E - 04	= μm ²
cP	×	1.0*	E - 03	= Pa · s
cSt	×	1.0*	E - 06	= m ² / s
cal	×	4.186	E + 00	= J
Btu	×	1.055056	E + 03	= J
Å	×	1.0*	E - 10	= m
HP(メトリック)	×	7.35499	E - 01	= kW
hp(英・米)	×	7.46043	E - 01	= kW
US gallon	×	3.785412	E - 03	= m ³
US short ton	×	9.071847	E + 02	= kg
rpm				= 1 / min
(°F - 32) / 1.8				= °C
mile	×	1.609344*	E + 00	= km
acre	×	4.046873	E + 03	= m ²
knot	×	5.144444	E - 01	= m / s
海里	×	1.852	E + 03	= m
141.5 / (131.5 + °API)				= g / cm ³
mm Hg	×	1.33322	E + 02	= Pa
mm H ₂ O	×	9.80665	E + 00	= Pa
ft H ₂ O	×	2.98898	E + 03	= Pa

*は正確な値

石油技術協会誌原稿整理票

著者は石油技術協会誌投稿規定と石油技術協会誌投稿要領（会誌の最新巻第1号に掲載）に従うものとする。

原稿発送日	20 年 月 日	事務局記入	受付日	20 年 月 日
著者氏名	和 文			
	ローマ字			
コレスポンドイング オーサー*	連絡先 (会社名)	〒		
		電 話	FAX	
		E-Mail :		
		所 属 :		
		氏 名 :		
表 題	和 文			
	英 文			
○で囲む	和文 英文	○で囲む	投稿原稿	シンポジウム 依頼原稿
種別 (○で囲む)**	論文 報告 短報 総説 資料 解説 討論 口絵 講演 新刊紹介 会員の声 参加報告			
原稿の内訳**	①表紙	枚	②英文要旨 (300 語以内) とキーワード (3~12)	枚
	③本文	字詰	枚	④図の説明文の一覧表
	枚	⑤表	表	枚
	⑥図	図	枚	⑦英文原稿の場合の和文要旨 (表題, 著者氏名, 1,200 字以内の要旨)
				枚

* 第1ページの脚注欄にコレスポンドイングオーサーの E-Mail アドレスを掲載するが、掲載を希望しない場合は下記欄にチェックをいれること。

E-Mail アドレスの掲載を希望しない。

** 石油技術協会編集委員会が認めた場合には、石油技術協会誌投稿規定別表に規定されている最大ページ数を超過することができる。

編集委員会記入欄			
原稿整理番号	予想ページ数	受理日	掲載号
			巻 号